

・研修期間：8月6日～24日 ・参加者：33名 ・研修内容：①韓国語の講義（初級、中級の2クラス）②韓国文化に関する講義 ③韓国文化体験 ④フィールドワーク ・滞在場所：釜山大学学生寮（同じプログラムに参加する台湾人の大学院生と相部屋）

今回、この釜山大学のサマープログラムの掲示を見たとき、全学で2名程度の派遣ということもありダメもとで応募だけでもしてみようかなと応募することを決意しました。派遣が決まってからはパスポートを手配したり旅券を手配したりととても慌しく毎日が過ぎていった様に思います。また、実際に韓国に行くまでは初めての海外でしたので不安ばかりが増大していく毎日でしたし、北海道教育大学と釜山大学が提携を結んだのは今年1月で、本学としての派遣は1期生という、大学を背負っている重圧感が強かったのですが、韓国の地に降り立つとそのような不安は一気に吹き飛びました。空港までは釜山大学で私達のチューターをしてくれる学生がピックアップに来てくれていましたし、参加している学生、韓国人のチューターや先生方、釜山大学の関係者の方々はどの方も本当に素晴らしい方だったからです。内容もどれもとても濃い充実したもので、日々様々なことを吸収することが出来ました。日本人だけが参加しているのかと思っていましたが、英語で行うプログラムということもあってか、中国や台湾、香港などから参加している人もおり、学生だけではなく中国の大学で教鞭をとっている人もおり、バラエティーに富んだメンバーが参加していました。このようなすばらしいメンバーと、韓国語をはじめ、韓国の文化や歴史を共に学ぶ機会にめぐり合うことが出来、今までで一番充実した夏休みを過ごすことができたと思います。以下にそれぞれのことについて少し掘り下げて書いてみようと思いますが、書ききれないくらいたくさんさんの貴重な経験をすることが出来たことを、この機会を与えてくださったすべての方々に感謝したいと思います。

## 1. 韓国語の講義

この授業は毎日午前中9時半から大体12時まで行われました。初日に初級と中級に分ける簡単なテストが行われ、2クラス構成で授業を進めていき、文法と会話の2種類の授業がありました。しかし、すべてが英語で行われるというたい文句はどこへやら、韓国人の先生は授業のほとんどを韓国語で進めていました。特に私は初級クラスだったため、韓国語の先生が何か韓国語で質問をしても最初はさっぱりわからず、ポカーンとしていくことが多かったように思います。けれど、先生方は時に英単語を示しながら授業を進めてくださり、丁寧にゆっくり説明して下さいました。始めはハングル文字さえ読むことに時間がかかった初級の私達でさえ、簡単な日常会話が出来ようになったのですから、その上達の早さに中級の人たちは驚いていました。ただし、単語テストが毎回課されたり、会話の小テストがあったり、ついていくのはなかなか大変でした。



## 2. 韓国文化に関する講義

この授業は、先生がそれぞれ異なりたいの場合英語で授業が行われました。パワーポイントを用いた授業で教室が暗くなるので寝ている人もたくさんいて、見かねた先生は「まじめな学生が多いと聞

いていたが、この辺り（寝ている人が集中している場所）の学生は例外のようだ。」とっていました。先生方はどの方も一生懸命講義してくださいましたが、中には偏った思想の押し付けのような授業や、過去の女性遍歴を話す個性的な先生もいたりして、少し考えてしまうような授業もありました。

### 3. 韓国文化体験の授業

この授業は多くの参加者に大好評で、サムルノリという韓国の伝統的な楽器を弾く授業やテコンドーの授業、キムチ作りの授業、陶芸の授業やランタン作り、韓国の伝統茶を体験する授業やチマチョゴリを着る授業など、どれもとても魅力的な内容でした。この授業でも先生がそれぞれ分かれており、英語



を話すことの出来る先生もいましたが中には韓国語で授業をし、韓国人のチューターに通訳してもらった先生もいました。ただし、韓国人のチューターも100%完璧に英語を使いこなせる人たちではなかったので、通訳と言ってもかなりはしょった内容を英語で伝える、といったものでした。先生方の言う内容を本当に理解したいと思うのであれば、やはりある程度の韓国語が出来たほうがよいと感じました。

（テコンドーの道場）

### 4. フィールドワーク

毎週金曜日は大学の外に出て講義や体験を行いました。1週目は市内観光で、テジョンデという場所を訪れたり、釜山で最も有名なヘウンデというビーチを訪れたりしました。移動はすべて大学のバスで行き、食事などもすべて大学側が払ってくれました。本当に何をすることも釜山大学の方々が力を貸してくださいるので、チューターの韓国人に相談すればたいいことは解決できました。2週目は陶芸をするためにバスで移動し、各自が好きなものを作りました。これは出来上がり次第郵送してくれるとのことでした。そのあとには龍宮寺という観光名所に行きました。とても景色がきれいで、私はこの場所がとても気に入りました。



（ヘウンデビーチ）



（龍宮寺）



（手前は私が作った湯飲み）

### 5. 寮生活について

寮では基本的に2人部屋で、同じプログラムに参加している女子学生と相部屋になりました。私は日本に留学して4年目という台湾人の人と同じ部屋になり、彼女と夜遅くまで韓国の政治や日韓関係、日本の教育事情や台湾と中国の歴史など、たくさんのことを討論し、とても内容の濃い話をする事ができたと思っています。また、彼女は中国語を話すことが出来たので、彼女を通じて寮にいる他の中国人の人たちと友達になることが出来ました。寮にはお風呂はありませんがシャワーが各階に3つずつ設置されていて、洗濯機が2台と脱水機が1台置かれていました。洗濯機は日本円で50円程度で使うこと

が出来ましたが、多くの方は手洗いで済ませていました。炊事場はありませんが各階に冷たい水と熱湯が出る浄水器が設置されていて、それでカップラーメンを食べたりすることも出来るようでした。エアコンはなく、各部屋に1台ずつ扇風機が支給されます。しかし、北海道の夏のような湿気の少ない暑さとは異なり、湿度も気温も高い釜山の夏を扇風機で過ごすのはかなり過酷なことでした。また、近くに林のようなものがあるためか、蚊がたくさんいて、それにはかなり頭を悩まされました。韓国の蚊は、日本の蚊よりも強力で、刺されると長い間かゆみが引かず、しかもかゆさも日本の蚊以上なので、かゆみ止めを持っていく、蚊取り線香をたくなどの対策は十分に行ったほうがいいと思います。テレビやパソコンも各フロアにありましたし、部屋で自分のパソコンをインターネットにつなぐことができるようになっていたので、パソコンが小さくて荷物にならないようであれば、もって行くととても便利だと思います。一人に1枚ずつセキュリティーカードが支給され、それがないと寮自体に入ることができなくなります。その点ではセキュリティー面ではとても安心だと思います。友人でセキュリティーカードをなくしてしまった人がいましたが、そのカードをなくしてしまうと罰則金を支払わなければならないようだったので、なくさないよう注意が必要です。

寮には通りをはさんで食堂があり、3食ここで食事をします。途中から寮が使えなくなり、近くの食堂で食事をとることになりましたが、大学側からクーポン券を支給されたので、お金を払う必要はありませんでした。寮の食事は、やはり韓国だけあって辛かったですが、韓国の家庭料理といった感じで素朴でとてもおいしかったですし、時にサムゲタンが出たりと豪華な日もありました。寮の近くの食堂では、メニューが単調でビビンバばかり食べた記憶があります。おでんなども食べる事が出来ましたが、寮での食事のほうが一日の栄養やカロリーを考えてくれていたので、体にはよかったです。



(見た目グロテスクでも美味サムゲタン)



(おでんは韓国語でもおでん)

## 6. 週末の過ごし方

基本的に土日は授業がないため、各自自由に過ごします。また、8月15日は国民の祝日になっているため、授業はありませんでした。休みを利用してソウルへ旅行に行く人やビーチに行く人など、その過ごし方も様々でした。私は大学の近くのポモサというところへ一人旅をしたり、友人6人で慶州に旅行に行ったり、アカスリに行ったり、韓国生活を満喫することが出来たと思います。たいていのところは地下鉄で行くことができるので、1日乗車券を購入して釜山観光をするのもいいと思います。また、慶州への旅行の途中には大学の夏休みを利用してソウルから自転車で旅をしているという男子学生に出会い、お互いの夢や学校でのことなどを語り合いました。こういったときに役に立つのはなんといっても英語で、英語が国際言語であると言うことを感じずにはいられませんでした。小さなペンとメモ帳を常に持ち歩いているとこのようなときにわからない単語を漢字で書いて説明したり、地図をかいたりすることができるので便利だと思います。たくさんの一期一会の出会いを経験することのできる週末は、ぜひ思いっきり楽しんでください。ただし、1週間進んだ授業の復習をするのにも重要な週末なので、勉強することも忘れないでほしいと思います。



(ポモサ 梵魚寺と書きます)



(世界遺産① 石窟庵)



(世界遺産② 仏国寺)

## 7、最後に

今回このようなプログラムに参加することが出来、本当に貴重な経験をする事が出来たと思っています。ここでであった仲間は、様々な大学からきており、お互いのバックグラウンドも全く異なるので、そのような仲間と教育のことを語ったときは、教育学部の視点ではない視点からの意見にとっても驚嘆しました。教育のこと以外でも世界情勢のことや日韓関係のこと等、普段なかなか話す機会がないような話題を深く討論をし自分の視野を広げることが出来たと思います。韓国人の人たちにはとても親切にいただきましたし、寮では中国人の友達に浴衣を着せてあげたり茶道の体験をさせてあげたり、こちらがしてもらっただけではなく日本文化を紹介し、何かを発信することが出来たのではないかと思います。日本の外に出て初めて見えてくる日本の良さ、日本という国の世界的な位置等を実感し、教員となったとき自分には何が出来るのだろうか、子ども達に何が伝えられるのだろうかと本当にさまざまなことを考えるきっかけになりました。これから韓国語や英語をもっとしっかり勉強し、また韓国に行きたいと思います。そして、次に韓国に行くときは韓国人の友達とも韓国語で会話が出来ようになりたいと思います。今回このような貴重な経験をする事が出来、準備の段階から大変お世話になった大学の学務グループの方や釜山大学のチューターの方々、今回のプログラムに関わってくださったすべての方々に本当に感謝しています。何ものにも変えられない、忘れることの出来ない3週間を、どうもありがとうございました。



(北海道教育大学発見!?)



(キムチ作り)



(チマチョゴリ)